

## 医療法人加藤会 小松島金磯病院

代表者	理事長 加藤 好包
業種	医療保健業
所在地	徳島県小松島市金磯町10-19
設立	昭和59年
労働者	68名 (男 19名 (うちパート・アルバイト 0名)) (女 49名 (うちパート・アルバイト 5名))

労働者の平均年齢 45.3 歳  
労働者の平均勤続年数 12.5 年 (平成23年11月現在)



### 主な 取組み内容

- 労働時間等設定改善委員会の設置
- 職場意識改善計画のホームページへの掲載
- 妊娠時点での職場復帰スケジュールなどの説明・相談の実施
- 時間単位の年次有給休暇制度の導入と取得促進
- 誕生日月休暇の導入

## ワーク・ライフ・バランスの取組みのきっかけは？

病院には看護職をはじめ有資格者の女性職員が多く、経験豊富な職員が出産・育児を理由として離職しないような対策と、育児をしながら働けるよう、両立支援が必要でしたので、ワーク・ライフ・バランスに取り組むのは、経営する側としても当然という意識は従来から持っていました。

当院では、仕事と家庭の両立制度の充実を図ることにより、男女の別なく、個々の能力や適正な評価に基づく雇用管理ができるようにしています。

## 取組みの結果、どのような変化がありましたか？

特に男性の育児参加促進事業への取組みや男性の育児参加サポート宣言を法人として行うことにより、育児休業を取得するのが当たり前という認識が全員にできているのではないかと考えられます。

子どもの病気や行事のための休暇も、以前に比べ理解が得られてきて、男性も取得しやすくなってきました。時間単位の年次有給休暇制度ができてから特に言えると思います。

また、労働時間に関する意識の改革の研修を職員に実施するとともに、職場意識改善計画を職場内に掲示したり、配布したりするだけでなく、ホームページに掲載することによって、外部の方にも当院の仕事と生活に関する方針を知ってもらえる環境にして、職員の自覚や意識向上につながるよう工夫しました。

これらの取組みの成果もあって、職場意識改善計画実施前から実施後2年（平成22年度）で、平均時間外労働を約25%削減することができました。

さらに、当院では、かねてから年次有給休暇の取得率が高く、現状でも年間平均取得率75%を維持しています。

## 取組みのポイントを教えてください

女性職員が多いので、出産や育児支援がポイントです。

妊娠がわかった時点で、産前産後休暇、育児休業とそこからの復帰のスケジュール、給与・年金・住民税、健康保険と雇用保険の給付金、院内保育室の利用、

妊娠・育児中に関する就業規則についての説明や相談を行っています。

やはり産休・育休に入ったときの身の置かれ方やその後の収入が一番、その職員にとっては不安なものです。そして、復帰にあたってのプログラムや育児について職員に安心してもらえることが企業としての役割だと考えています。

その他、アンケートなどを実施し、職員の意見・要望を吸い上げるようにしました。すると、職員から子どもが病気のとくに、連続して休める有給休暇制度を設けて欲しいなど、活発な意見も出てくるようになりました。

労働時間等設定改善委員会で検討した結果、年次有給休暇の取得促進のため、職員各自で休暇用紙を管理したり、誕生日月休暇を導入しました。

先程述べましたアンケートでは、仕事のやり方を工夫する必要があるなどの意見が出たことも踏まえ、病棟部門で、看護職の申し送り時間を短縮するための検討を行わせたりもしました。

## 取組みの際に困ったことは？

使用者としては、特に取組みの際に困ったことはありませんでしたが、少人数の部署では、部門責任者が退職者の業務をカバーするケースがどうしても多くなりがちで、時間外労働の増加など負担がどうしても増してしまいます。

## 今後の取組みの展望（課題）を教えてください

ワーク・ライフ・バランスと業務の効率アップを全員で考えていきたいと思えます。

職員の平均年齢が高くなってきており、そろそろ親の介護問題を抱える職員が出てきているので、介護休暇などの充実を考えてバックアップしていきたいと思えます。

また、これからもアンケートの実施から労働時間等設定改善委員会で揉んで、さらに各部署に課題を投げかけるというサイクルを継続することにより、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得しやすい環境の整備や業務改善をより一層進めたいと考えています。そして、退職者の職務を分担することについて、ワークシェアリングも進めたいと考えています。